

第4章

みんなで支える 開かれた運動部活動



1 みんなで支える開かれた運動部活動とは

運動部活動についても、学校内外にできるだけ開かれたものとするため、全ての生徒、保護者、そして地域の人々や競技団体に運動部活動についての考えや活動状況が見えるように情報発信する。

また、周囲の意見を十分に聞くことなど「風通しのよさ」を確保し、併せて、運動部活動の指導に際しても、保護者や地域の人々の教育力の活用を図り、家庭や地域社会の支援を積極的に受け入れる体制を整備する必要がある。

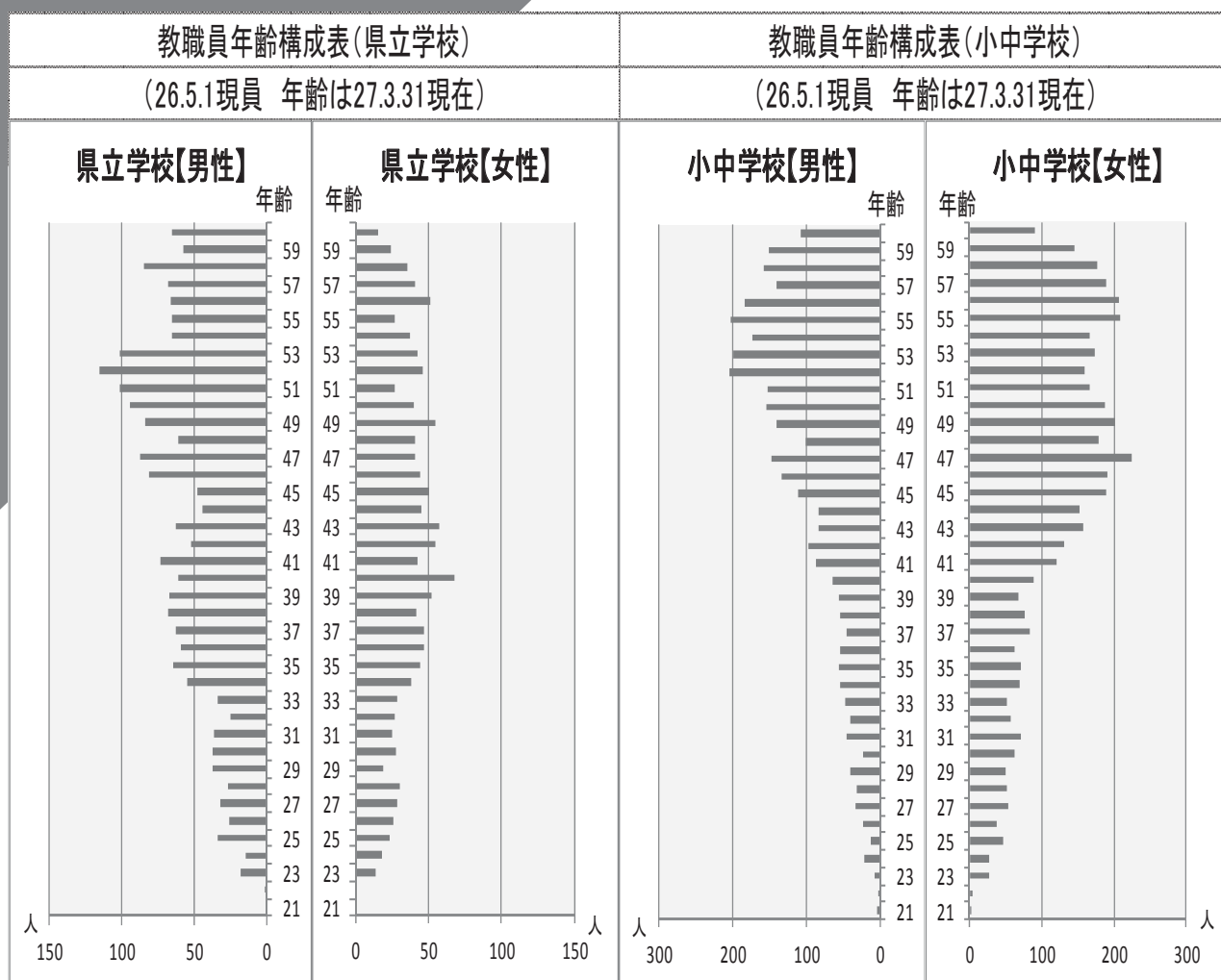
2 外部指導者の活用について

下の年齢構成表のグラフが示すとおり、本県の教職員の年齢層は、逆ピラミッド型の傾向にあり、特に小・中学校において顕著である。これまで部活動の指導の中心であった世代は、学校運営の中核を担うようになったにもかかわらず、部活動の指導を引き継ぐ若い世代が著しく減少している。教職員の負担軽減のためにも、今後は実技指導の一部を外部指導者に依頼し、生徒の技術の向上や生徒のニーズに応えるなど、柔軟な指導体制の在り方が望まれる。

運動部活動は、学校教育の一環として行われることから、顧問は、学校の教育方針の下、生徒や外部指導者の意見を十分に組み入れながら運営に携わり、外部指導者は実技指導面で顧問を支えることになる。

外部指導者の導入に当たっては、その必要性等を十分検討し、教職員・部員・保護者の共通理解を図ることが大切である。

参考資料



【質問30】

地域の外部指導者を活用することにより、どのようなメリットがありますか？

【ヒント】

地域の外部指導者を活用するメリットとして、次のことが挙げられます。

- 1 部員の多様な要望に合った実技指導の充実を図ることができます。
 - ・ 競技経験によって技術に差がある生徒や「競技志向」と「楽しみ志向」の生徒に対する指導において、顧問との役割を分担することにより、個別指導等より細かな指導ができるようになります。
 - ・ 生徒の要望に応える指導体制を築くことによって、生徒一人ひとりの目標達成や目的に合った活動として部活動を活性化させることができます。
- 2 部員が学校の教職員以外の人と触れ合える機会となります。
 - ・ 学校における生活時間の長い中学生・高校生が、外部指導者と触れ合いながら指導を受けることは、部員の成長にとって大変意義があります。
- 3 顧問の指導力を向上させることができます。
 - ・ 部活動をあずかる顧問として実技指導に不安がある場合、外部指導者に技術指導の実技面を支えてもらい、一緒に指導することで、顧問自らの指導力を向上させることができます。
- 4 安全管理に目が行き届くようになります。
 - ・ 複数の指導者で指導することにより、全体をより細かく見渡すことが可能となり、活動中の安全管理の徹底や事故防止につながります。

外部指導者の活用について、「先輩教員に学ぶ4」も参考にしてください。

また、外部指導者の活用の現状については、「外部指導者の活用に関する調査結果」P.87～を参照してください。

参考資料

平成22年8月26日に文部科学省が今後の我が国のスポーツ政策の基本的方向性を示すために策定した「スポーツ立国戦略」においても地域のスポーツ人材の活用を推進している。

スポーツ立国戦略（平成22年8月26日文部科学大臣決定）

スポーツ立国戦略 ―スポーツコミュニティ・ニッポン―（本文）

基本的な考え方

中略

2 連携・協働の推進

- ・ スポーツを普及・定着させ、スポーツを人々にとって身近なものとするためには、地域スポーツクラブ、学校、地方公共団体、スポーツ団体、企業などが組織の違いを超えて連携することにより、トップスポーツと地域スポーツの垣根をなくし、人材の好循環を生み出すことが必要である。
- ・ すなわち、トップアスリートが有する優れた技や人間的な魅力とスポーツを通じて培ったコミュニケーション能力やマネジメント能力を積極的に地域に還元することにより、青少年を含む人々のスポーツへの参加意欲を高め、地域から新たな才能が発掘されることが期待できる。このような人材の好循環を形成することにより、スポーツのすそ野が拡大し、トップの伸長にも寄与するであろう。
- ・ このための具体的な方策として、拠点となる総合型地域スポーツクラブ（「拠点クラブ」）に引退後のトップアスリートを配置し、地域住民に質の高いスポーツサービスを提供したり、学校体育の外部指導者として派遣したりすることなどを積極的に進める。また、競技により培ったトップアスリートの技能が社会に還元されるよう、キャリア形成のための奨学金の給付、企業や総合型地域スポーツクラブ（総合型クラブ）等への紹介・斡旋などを一体的に行う新たなシステムの構築を検討する。

部活動について・・・(パート2) <平成21年度 松山市立北中学校長 原田 秀樹先生>

学校の部活動は、生徒数の減少、指導者の高年齢化、若年教師の経験不足など、さまざまな困難に直面し、従来のやり方のままでは活動を維持することが困難になってきているのが現状ではないだろうか。しかし、発想を転換すれば、部活動を再生させることが可能になるばかりか、そのことが教育そのものを改善する力に繋がるかもしれないと密かに考えている…。

部活動についての固定観念には次のようなものがあるような気がする。**まず、学校を単位とする活動であること。次に、指導者イコール教師であること。更には、活動場所は学校であること。**これらが「足かせ」となって、今日の困難な状況を招いているように思われる。このままでは、生徒の選択肢を狭め、個性伸長への道を閉ざすことにもなりかねない…。

教育活動は、あくまで生徒を主体に構成されるべきであり、いつまでも「学校」という枠に囚われすぎるべきでない時代になりつつあるように思う。「学校教育を生涯学習の一環として位置づけるべきだ」と指摘されてから、もう何年経ったのか…。また、「開かれた学校」への社会的要請も急速に強まっている。

このような潮流を踏まえたとき、真っ先に考えられる対応は社会人を活用（失礼な表現だが）することにある。しかし、「適当な指導者がいない」ということをよく耳にする。考えてみれば、それは当たり前の話で、毎日放課後に学校に来て、むずかしい時期の生徒を、教師のようにバリバリ引っ張ってくれる人などそうそういるものではない。結局、現在の「若くて熱心な」教師指導者のイメージを抱いている限り、指導者は見つからない、ということにいきついでしまうのは仕方のないことである。

まると社会人に任せるという発想ではなく、教師は教育の専門家として、生徒の心理や発達段階をわきまえ、トータルに生徒を掌握し、社会人には技術的な指導をお願いする、という役割分担を考えれば、打開策が見えてくるような気がする。生徒の心に、社会人から謙虚に学ぼうとする姿勢さえ育てておけば、会社を定年でリタイアされた方などをお願いすることも可能になると思う。ただし、学校（教師側）に、生徒を謙虚に育てるだけの指導力があればの話だが…。

学校と塾に隔離され、一般の社会人との関わりが少ない生徒の現状を考えたとき、このようなスタイルの部活動を通して社会人と直接向き合い、つきあっていく体験は、今の生徒にとって貴重なものになるだろう…。また、学校としても、僭越ながら、シルバーパワーの活用という点で地域づくりの一翼を担えるのではないだろうか。もっとも、社会人の役割をそのように技術的なものに限定する必要もないのかもしれない。自主性や自治的な態度が形成されてゆけば、大部分を社会人に任せることも可能になるような気がする。

次は、隣接の学校と共同で部活動を運営するという方法である。（現在すでに実施されている）〇〇中というゼッケンだけでなく、人間関係も学校という枠を外せばいいだけで、現に生徒は塾などで、教師の知らない人間関係をつくっているのだから…。更に、週末に開催される社会人の教室やクラブなどに参加させることを考えてもいいのではないか。平日の何日かは学校で活動するものの、週末には社会人と混じって、いや社会人として生涯学習に参加する、という考え方もできるのではないだろうか。

これからの学校は、これらの新しいタイプの部活動が、旧来の「学校限定バージョン」と共存する状況になってくるだろう。いや、ならなければ運営が難しくなるのは目に見えている。（現在一部で、すでに実施されている）これらが現実になることにより、生徒は種目のみならず形態についても選択できることになる。

教師は、教職の専門性と社会人や社会教育団体との調整能力を問われることにもなりかねないが、それらを基礎として本務の授業研究を一層深めることができるようになるような気がする。よく、「先生は世間〇〇〇」と言われるが、生徒に人間力を求めるなら、自ら人間力のある教師になりたいものである。

【質問31】

運動部の外部指導者には、どのような資質が必要ですか？

【ヒント】

外部指導者も直接、生徒の指導に当たることから、以下のような資質が期待されます。

チェックしてみましょう。

- 1 学校の組織の一人としての自覚と情熱がある。
 - ☐ 学校の指導方針を理解し、学校の教職員、他の外部指導者、保護者との連携を図ることができ、顧問と協力しながら熱心に指導ができる。
 - ☐ 報告・連絡・相談が確実にできる。
 - ☐ 部活動にかかわることによって知り得た子どもに関する情報の守秘義務を守るなど、行動に責任をもつ。
- 2 確かな技術指導を有する。
 - ☐ 専門的な指導技術と技能を有しており、教育活動に携わる者としての見識と人柄をもっている。
 - ☐ 地域の競技団体から信頼されている。
 - ☐ 日本体育協会等の公認指導員の資格や武道団体の高段位を有する。
- 3 教育的配慮の下、発育、発達段階に応じて指導ができる。
 - ☐ 勝利至上主義に陥らず、指導者としての使命感や誇りをもち、子どもに対する愛情がある。
 - ☐ 子どもを一人の人間として認め、尊重することができる。
 - ☐ 礼儀作法をはじめ対人関係能力、コミュニケーション能力などの教育者としての資質を備えている。
- 4 指導者としての責任感が強い。
 - ☐ 体罰やセクハラととられかねない言動は慎む。

【質問32】

外部指導者をどのように探し出せばよいですか？

【ヒント】

愛媛県教育委員会では、公益財団法人日本体育協会の公認指導者の有資格者等で運動部活動の指導をする意思のある方を愛媛県生涯学習センターの「えひめマナビイ人材データバンク」に登録しています。外部指導者をお探しでお困りの学校は、次の検索方法を参考にして地域の優秀なスポーツ人材を活用してください。

また、県内の競技団体ごとに外部指導者に関する相談窓口を設置し、指導者のいない運動部活動に対して、指導者の紹介ができるようにしています。

各学校の運動部活動の現状に応じて、地域のスポーツ人材の活用を積極的に検討し、夢をもって入部した生徒たちが、有意義な部活動を展開できるようにしてください。

検索方法と相談窓口に関する資料は、下記のとおりです。

・「えひめマナビイ人材データバンク」の検索方法は次頁に示した手順1～4の説明図を参考にしてください。

・競技団体の相談窓口については、愛媛県教育委員会保健体育課にお問い合わせください。外部指導者に関する各競技団体の連絡先をお伝えします。

保健体育課 TEL (089-912-2980)

参考資料

「えひめマナビィ人材データバンク」の検索手順

「えひめマナビィ人材データバンク」のアドレスは下記のとおりです。

<http://ilove.manabi-ehime.jp/system/person/index.asp>

また、愛媛県教育委員会保健体育課のホームページからもアクセスできます。

下記に保健体育課からの手順を紹介します。

【手順 1】



保健体育課のホームページ
地域スポーツ人材バンク情報の
「生涯学習情報提供システム」を
クリックしてください。

【手順 2】



検索したいキーワード

- 1 「保健体育課」と入力すると保健体育課が推薦している運動部活動の指導者全員を見ることができます。
- 2 特定の競技の指導者を探したい場合は、例えば、「剣道」と入力してください。

【手順 3】



②、③、④には
「地域」、「分類」、「講師の年代」
の項目別にクリックするとさらに特定
したい指導者を探すことができます。

【手順 4】

えひめマナビィ人材データバンク情報

性別	男
生年月日	昭和〇年
住所	
電話番号	
Eメール	
指導領域	F1: 体育・スポーツ・レクリエーション一般(学校運動部活動) F4: 球技(〇〇)
要請に応じられない時間	平日は18:00以降 休日は要相談
経歴	〇〇公認指導員 保健体育課スポーツ人材バンク登録(〇〇〇〇)

- 1 検索した指導者のページから、次の情報が得られます。
ただし、指導者が承諾していない個人情報は出ていません。
- 2 電話番号の個人情報が掲載されていない指導者の場合は、
愛媛県生涯学習センター（089-963-2111）を通じて、指導者から連絡先を提供していただくことになります。

【質問33】

学校で外部指導者を活用する前に、どのようなことを話し合い、確認しておくといよいですか？

【ヒント】

学校の教育目標や部活動の運営方針を明確に伝え、生徒や保護者が求める意見にも耳を傾けながら、外部指導者と顧問の役割分担を整理しておく必要があります。

また、指導目標や指導方針等の食い違いなどにより生徒に混乱が生じないように、下記に示した指導事項についての確認や事前協議を行い、「外部指導者を活用する場合の確認（協議）事項」を作成し、顧問と外部指導者の共通理解を図る必要があります。

チェックしてみましょう。

運動部活動における指導の中心は、あくまでも顧問（教員）であることを外部指導者に伝え、以下のことを確認しましょう。

- ☐ 1 外部指導者と顧問との役割分担
 - ☐ 2 学校教育方針、部の運営方針、目標の設定、練習計画等
 - ☐ 3 外部指導者に指導を依頼する目的及び具体的な指導内容
 - ☐ 4 学校の活動時間（年間）、練習施設、設備及び部員数
 - ☐ 5 学校の校内規定等
 - ☐ 6 指導の依頼期間
 - ☐ 7 外部指導者が負担する旅費等の必要経費
 - ☐ 8 謝金、交通費の有無及びその支給条件
 - ☐ 9 学校側の都合により活用を中止する場合の条件
- （※中止する場合の条件例）
- ・心身の故障のため、職務の遂行に堪えられないと認められるとき
 - ・職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき
 - ・指導者としてふさわしくない行為があったとき

なお、外部指導者として松山北高校サッカー部を指導されている（H26年度現在）、大西 貴さんのメッセージも参考にしてください。



外部指導者へのメッセージ

【大西 貴さん プロフィール】

- 愛媛県立南宇和高校3年時：第68回全国高校サッカー選手権(1989年度)優勝
主将として活躍し、四国勢初となる優勝の栄冠に輝いた。
- 福岡大学卒業後、1994年：サンフレッチェ広島入団、1997年：京都パープルサンガへ移籍。
- プロチーム退団後、愛媛F Cで選手兼コーチ、監督等を経て、現在に至る。
- 平成26年度現在、愛媛県立松山北高校サッカー部コーチ、サンフレッチェ広島・愛媛F C等のプロサッカーテレビ中継解説者として活躍中。
- 日本サッカー協会公認A級ライセンス保持。

— 部活動外部指導者として —

松山北高校サッカー部コーチ 大西 貴

平成17年の1月より、松山北サッカー部の外部コーチとして選手育成に協力させていただいています。

私自身が外部指導者として心掛けていることは二つあります。

一番大切にしていることは監督との関係です。監督との良好な関係がなければ、外部指導者として選手たちの技術の向上や、彼らとのコミュニケーションも難しいと考えています。

選手たちの毎日の学校生活を一番近く感じているのは監督の先生です。チームの中での自分の立ち位置を常に理解するとともに、今自分は監督に「何を求められているのか」を正確に理解することが、最も必要な外部指導者としての資質だと思います。

監督の先生をリスペクトし、コミュニケーションを図ることで、はじめて健全な選手たちの育成ができると思います。

次に選手たちへの指導方法です。これは監督と常にコミュニケーションをとり、こういった方法で選手個々に技術・戦術をレクチャーしていくかを大切にしています。

私はサッカーという部活動をうまく活用することにより、学校生活や人間性を向上させることができていると思っています。現在の松山北高校サッカー部では、個人が目標を設定し、目標を達成するためのプロセス（何をいつまでにこういった方法でする）まで考えて行動している選手もいます。こういった思考は、今後サッカー以外でも、選手が自分自身の力でいろいろな目標を達成するためのヒントになると私は考えています。私のコーチとしての役割は、そういった選手にその都度アドバイスをするという仕事がメインとなっています。

最後に私自身、選手たちに指導者として関わる中で、最も意識していることは「伝える指導と伝わる指導」は全く違う指導だということです。日々のトレーニングの中で、選手に対し一生懸命、技術や戦術を伝えたとところで、実際に選手が理解できているかは別問題です。

私自身、指導者として大切なことは、選手に伝わる指導が大切だと考えています。選手自身が自ら考えて行動できるかどうかは、指導者の伝え方で大きく変化すると思います。指導者として、自らの経験だけの指導をしていると選手たちは変わりません。指導者として、専門的なアドバイスを理論的に説明するためには、勉強するしかありません。

私自身も部活動外部指導者として、日々勉強し選手たちから色々なことを学び、一緒に成長できる部活動外部指導者になれるよう、今後も学校関係者と協力しながら、良きコーチとして頑張りたいと思います。

参考資料

顧問の渡部教諭と外部指導者の大西氏が連携を深めて指導し、平成26年度全国高等学校総合体育大会出場、平成26年度全国高校サッカー選手権大会出場へ導いた。

下のサッカー部通信は、毎回、生徒自身が作成し、サッカー部スタッフや部員に配布している。

松山北高校サッカー部

晃久一期生通信 NO.18



～2014年度の締めくくり・新たなスタート～

とうとう 2014 年のカウントダウンが始まると同時に選手権へのカウントダウン、そしてセンター試験へのカウントダウンが始まりました。2015 年まであと 6 日。選手権初戦まであと 5 日。センター試験まであと 22 日。えー、今年も色々なことがありました。話し出すと止まりません（笑）

2014 年はみなさんにとってどんな年だったのでしょうか？勉強の合間にふと思い出すのもいいかもしれません^^そして 1 月 1 日からは 2015 年が始まります。なにかうまくいってないことがある人、勉強で行き詰っている人はここがいい節目になるのでは!?笑 「1 月 1 日」もう一度、気持ちを新たにリフレッシュして 2015 年をスタートさせましょう!!

さあ、しかし 2014 年最後のビックイベントがまだ待っている……。年越し特訓か？紅白か？それとも今年のカウントダウンか？いやいや、「選手権」や!!!もう、これしかない!!!センター前、みんなの年越し特訓に対するモチベは上がってきたと思う。でも、やっぱりちょっとは選手権気になってるんちゃうかな？笑 総体が終わり、ほとんどの三年生が勉強に切り替えた。それでも、三年生の力が新しい松北を支えてくれて、もう一度全国の舞台への挑戦権を得ることができたと思う。だから、もう一度、その力を貸してくれ!!!

みんなの応援が遠い愛媛からフクアリまで届くと信じています。

松北サッカー部は応援してくれている全ての人々に対して感謝の心をもって、勝利という形で恩返しできるように最高の準備をして、会場に乗り込みます!!!

ある日岩本は言いました。「俺は、勉強で全国の人たちと戦う」と……。その日まであと少し。

ここまで俺たち松北サッカー部が結果を残せたのも「いい準備」が出来たから。勉強も同じやと思う!

最高の準備ができるように、この冬休みもうひと頑張りしていい準備ができるようにしよう!!

そして、全国へ行った時の三年は勉強も凄かったってところを見せつけてやろうぜ!!!

『どこまでも行こうぜ 勝利を信じ〜 熱き友の想い 胸に宿して〜 行こう 勝利へ〜 共に戦え ラララララ 歌声響かせろ 愛媛! 遠く愛媛まで 愛媛! さぁみんなで帰ろう 愛媛に帰ろう 勝利の手に〜』
離れていても、気持ちはひとつや!!!

～渡部先生から～

『腹をくくる』

いよいよセンター試験までのカウントダウンが始まったな。今更何をやっても焦りしか出てこない時期だが、一つだけみんなに渡部なりのアドバイスをしておきたい。まず思い悩んだら、勉強時間を少し削り、散髪に行くこと。そして部屋を掃除すること。さらには身だしなみをいつも確認すること。腹をくくるという言葉があるが、この語源は『たるんだ和服の帯を締め直す。また衣服を整え、姿勢を正す。』という説がある。センター試験への覚悟を決めて、自分の身の回りをもう一度見直してほしい。先生も選手権前に散髪に行き、試合前には服装を確認して、腹をくくって試合会場に入ります。みんなも北高生らしい端正な身だしなみで試験会場に入り、いつも通りの力が出せるよう健闘を祈ります!

運動部活動の外部指導者活用指針

1 趣旨

この指針は、愛媛県教育委員会が人材リストに登録した運動部活動の外部指導者を活用しようとする学校が配慮すべき事項を定めるものとする。

2 外部指導者の活用にあたっての留意事項

- (1) 学校は、次の事項を外部指導者に対し明確に示さなければならない。
 - ア 外部指導者に指導を依頼する目的及び具体的な指導内容
 - イ 学校の活動時間（年間）、練習施設、設備及び部員数
 - ウ 指導の依頼期間
 - エ 外部指導者が負担する旅費等の必要経費
 - オ 謝金の有無及びその支給条件
 - カ 学校側の都合により活用を中止する場合の条件
- (2) 運動部活動の顧問教員は、月単位で外部指導者の指導予定日を把握するとともに、変更が生じた場合の連絡方法を確認すること。特に、休日の練習における部員への連絡体制を整備すること。
- (3) 施設使用上の遵守すべき内容を示した校内の規程などを外部指導者に周知、徹底すること。
- (4) 部員の指導のために、必要な情報を外部指導者に伝えること。また、指導上知り得た秘密を他に漏らさないよう外部指導者に徹底すること。
- (5) 学校行事等の月間（週間）予定表等を利用し対外的な練習計画に役立てること。
- (6) 目標設定については、学校及び部員等の実態に応じたものとする。
- (7) 外部指導者を部員のみならず教職員、生徒、保護者に周知すること。
- (8) 外部指導者の指導中の傷害保険に加入すること。
- (9) 外部指導者の指導状況を把握するため、期日、時間、指導内容等を記録する指導実績簿を作成すること。
- (10) 顧問と外部指導者の良好な人間関係を構築し、指導の効果を高めること。

3 その他

この指針は、学校の運動部活動及び外部指導者の実態等を踏まえ、必要に応じて見直すものとする。

（平成20年度 愛媛県教育委員会作成）

【質問34】

外部指導者を活用するときの手順はどのようにすればよいですか？

【ヒント】

部活動は学校教育活動の一環として行われるため、外部指導者の活用にあたっては、下記の手順を踏み、その身分の位置付けを明確にしておく必要があります。手順を怠った場合、トラブルの原因にもなる場合もあります。十分留意して行うようにしましょう。

<重要>

独立行政法人日本スポーツ振興センター「災害共済 給付の手引き」の「8 学校管理下」の範囲
○学校の教育計画に基づいて行われる課外指導を受けている場合（施行令第5条第2項第2号）
（説明）

中略

4 学校の教育計画に基づいて行われる次のような場合は、課外活動と考える。

中略

（2）学校の設置者等に委嘱された外部指導者の適切な指導の下に行われる課外の運動部活動
（授業終了後、休業日等に行われる運動部活動）に参加した場合

※注書きの一部抜粋

学校の設置者等が委嘱した外部指導者の指導による運動部活動を学校の管理下の範囲に含めるものである。（学校の教育活動に基づくものとは解されない外部指導者の恣意的な計画等による活動を除く。）

次のような手順で、行うといいでしょう。

チェックしてみましょう。

- 1 学校の部活動の方針、指導内容や役割、活用条件や任命の仕方等を規定した外部指導者活用の規程（注1）を作成し、教職員の共通理解を図る。
- 2 指導可能な地域の指導者候補の中から人選し、管理職の面接、書類審査等により決定する。
 - ・選考に当たり、候補者の指導実績や指導方針については、地域の競技団体等に相談するのも有効である。
 - ・履歴、健康状態等を面接又は書面等で確認する。
- 3 外部指導者として決定又は指導を開始するまでに、「外部指導者を活用する場合の留意（協議）事項」に基づく確認事項を具体的に作成し、関係者で十分に事前協議を行い、同意書（注2）を作成する。
- 4 外部指導者の委嘱は、学校長名で委嘱する。（注3）
- 5 学校側は、外部指導者を適切な場面で正式に紹介し、教職員・部員・保護者の共通理解を図る。
 - ・職員会議、新任式、全校集会 など
 - ・生徒会が発行する新聞、PTA対象の配布物、学校のホームページ など

【質問34】の（注1～3）について

【（注1）の参考例】

- 1 導入に当っては、顧問と生徒の意見を尊重し、教育に携わる者としての資質を十分に鑑みて決定する。
- 2 任期は1年とする。ただし、再任は妨げないが、委嘱は各年度ごとに行う。
- 3 委嘱は校長が行い、委嘱状を交付する。
- 4 技術指導を担当し、十分な教育的配慮のもとに指導する。
- 5 顧問との意思疎通を十分に図るため、定期的に連絡会を行う。
- 6 活動目標、指導計画等は、顧問が外部指導者の助言を取り入れながら作成し、計画に基づいて協力して指導に当たる。
- 7 外部指導者にはスポーツ安全保険等に参加してもらう。
- 8 外部指導者を複数の部活動で活用する場合は、顧問、外部指導者による連絡協議会を開催する。

【（注2）の参考例】

「確認（協議）事項」で話し合ったことを具体的に明記する。

「確認（協議）事項」に関する同意書

- 1
- 2
- 3
- 4

私は、学校の組織の一人として教育に携わる者として上記留意事項を理解し、遵守して指導することに同意します。

年 月 日 ○○○○ 印

【（注3）の参考例】

委嘱状

○○○○ 様

貴殿を本校○○部の運動部活動外部指導者に委嘱します。

任期は平成○○年○月○日から平成○○年○月○日までとする。

平成○年○月○日

○○学校長 △△ △△ 公印

【質問35】

外部指導者の活用が決定した後、外部指導者とは具体的にどのように意思疎通を図ればよいですか？

【ヒント】

顧問は外部指導者との話し合いを適宜行い、常に信頼関係を深めていくことが重要です。

外部指導者を活用する場合は、学校の指導方針など教職員と各部の共通理解を図るため、打ち合わせ等を開催しながら連携を深めることが大切です。

複数の部活動で活用している場合は、各部で認識や理解に温度差がないようにするために、合同で「連絡協議会」を設置するのもいいでしょう。

「連絡協議会」の構成員と話し合う内容の例を紹介します。

チェックしてみましょう

□構成員

- ・ 管理職、部活動担当者、顧問、外部指導者など
- ・ その他、学校の実態に合わせて選考する。

□協議内容

- ・ 活動報告
- ・ 外部指導者活用規定について
- ・ 役割分担や留意事項の確認
- ・ 活動上の問題点や要望事項について
- ・ 指導上の問題点や共通理解について
- ・ その他必要と思われる協議事項

外部指導者との連携について、次頁以降の先輩教員等の実践事例を参考にしてください。



競技について専門的な知識がない顧問が外部指導者の方とともに生徒を成長させるためにできること

四国中央市立三島東中学校 河上 歩

顧問として選択集団である部活動を経営していくためには、生徒の技術を伸ばしてやることは不可欠なことです。先輩からも、それを抜きにして部活経営は成立しないと教わりました。しかしながら、私には専門的に指導できる競技もなければ、何かの競技を歯をくいしばってがんばりきった経験ありません。現在、卓球部の顧問をさせていただいていますが、競技に関して、私の飲み込みが遅いため、半年たった今でも卓球の「た」の字が見えてきたかどうかというお恥ずかしい状況です。しかし、5年間の教員生活で、お二人の外部指導者の方とご一緒させていただき、技術指導が十分にできない私が生徒の成長のためにできることが何か見出すことができました。今後、学校現場では地域の方とともに部活動を通して生徒を育てていける機会がさらに増えていくだろうと思います。その際、私が心がけていることが少しでもお役に立てればありがたいと思い少し述べさせていただきます。

① 「部活」について自分の考えをはっきりと持つ

私は部活動を人格形成の場ととらえています。競技を通して、人として魅力のある選手を育てることが第一だと諸先輩方から学ばせていただきました。

② 外部指導者とのコミュニケーションをしっかりとる

専門的な技術指導はできないにしても、技術的にも人間的にも成長させたいという願いをコーチの方と共有することが第一歩でした。自分の人となりを知ってもらいながら、コーチの考え方や人柄を理解し、感謝の気持ちを持ってやっていくことが大事だと感じています。

③ 生活指導、人間指導の部分では顧問がふんばる

技術指導力はゼロに等しいけれど、生徒の成長のために自分にできることは何か、そのことをずっと考えてきました。そして見えてきたものがあります。それは、人としてあたりまえのことがあたりまえにできる生徒を育てるための関わりです。私は、競技だけしかがんばらない選手に魅力はないと思っています。競技をがんばるのであれば、その前に、まわりに対する感謝の気持ちや、仲間に対する心配り、人を大切に作る心、礼儀、あいさつ、マナーなど、人としてきちんとしなければならないことがきちんとできる選手を育てるのが部活動だと教わりました。その部分で、生徒と勝負するのは顧問の仕事です。ありがたいことに、その部分でコーチの方と考え方が一致していたので、コーチが生徒に伝えてくださることをかみ砕いて伝えたり、自分の考えを加えたりしながら、生徒に伝えるようにしてきました。生徒たちは4月当初にはできていなかったことも、半年たった今少しずつ身になりつつあります。何が失礼で、何がわがままなのか、生徒はわかっているようでわかっていないことが多いです。それを、きちんと伝えてやること、部活をする前に大事なことがあって、それらをさしおいて競技だけをがんばっても意味がないことを繰り返し指導しています。それが伝わるようにするために、ふだんからよく生徒を見て、対話し、生徒の変化に気付けるように心がけています。そして直すべきところ、よいところを、直接あるいは部活便りにして伝えていきます。

おわりに

競技ができないことを、生徒との関わりがうまくいかない言い訳にしていた時期もありました。しかし、外部指導の方が生徒を大切に思い、一生懸命関わってくださる姿を見て、このままではいけないと感じるようになりました。今は、生徒に自分が人として大切だと思えることを伝えながら、生徒とともに、また生徒からその競技を教わり、学んでいます。外部指導の方には、多大なご迷惑をおかけしていますが、これからも感謝の気持ちと学ぶ姿勢を忘れることなく、部活を通して生徒に誠実に関わっていきたいと考えます。

【質問36】

指導するに当たり、顧問と外部指導者はどのように役割分担をすればよいですか？

【ヒント】

顧問と外部指導者がそれぞれの役割分担等について確認し、生徒にとって有効な協力体制を整えた上で、外部指導者からの専門的な技術指導を受けることが大切です。

顧問と外部指導者との連携について、4種類のパターンを以下に紹介するので参考にしてください。

また、愛媛県教育委員会の外部指導者を活用した連携については、「外部指導者の活用に関する調査による本県の状況」P.91を参考にしてください。

【パターン1】役割を分担した指導体制の在り方

- ・顧問教諭は部活動運営に係る業務を、外部指導者は実技指導を主に担当するなど、顧問教諭と外部指導者の役割を明確にして指導する。
- ・外部指導者は練習メニューの作成や技術指導を、顧問教諭は練習の補助や基礎練習を担当するなど、指導者の知識や生徒の技能等の状況に応じて指導を分担する。
- ・外部指導者が不在の時は、外部指導者が作成した練習メニューに基づき、顧問教諭が指導する。

◎指導の効果

- 明確な役割分担により、効果的、効率的な指導ができ、生徒の競技力等が向上した。
- 顧問教諭と外部指導者との連携により、生徒理解が深まり、指導の効果が高まった。

【パターン2】安全に配慮した指導体制や指導方法の在り方

- ・外部指導者と打合せ等を定期的に行い、準備運動の徹底、基礎的な技能の確実な習得、安全器具等の設置など、安全を確保するための指導上の留意点について、共通理解を図る。
- ・外部指導者が所属する関係団体の協力を得て、指導やその補助、用具の諸準備等を円滑に行い、事故の未然防止に努める。
- ・外部指導者が専門的な立場から安全面に配慮した練習メニューを作成し、それに基づき顧問教諭が指導する。

◎指導の効果

- 分担して指導することにより、活動中の生徒の安全が確保された。
- 外部指導者の専門性を生かした指導により、運動の特性を踏まえた事故予防等について、生徒の理解が深まった。

【パターン3】専門的指導力を高めるための外部指導者との連携の在り方

- ・指導法のほか、監督、コーチとして必要な知識等を外部指導者が顧問教諭に伝授する。
- ・顧問教諭も練習に参加し、指導のポイント等について理解を深める。
- ・顧問教諭同士のネットワークの構築を図るため、外部指導者が調整役となり、他校の顧問教諭とのコミュニケーションの場を積極的に設ける。
- ・部活動の練習として取り上げる内容のねらいと効果について、顧問教諭と外部指導者が十分に話し合いを行う。

◎指導の効果

- 外部指導者が競技の特性を踏まえた指導方針の下、綿密な指導計画を作成して、顧問教諭と連携することで、顧問教諭の日常の指導が容易になった。
- 他校の顧問教諭との交流が増し、練習方法等について情報交換が積極的になされ、活動の活性化につながった。

【パターン4】能力差や技能の熟練度に差がある生徒に対する指導体制や指導方法の在り方

- ・顧問教諭が全般的な技術指導を、外部指導者が専門性を生かした高度な技術指導を担当するなど、指導者の知識や技能等の状況に応じて指導を分担する。
- ・顧問教諭が初心者への技術指導を、外部指導者が戦術にかかわる全体練習を担当するなど、競技の特性や生徒の状況に応じて指導を分担する。
- ・基礎的な練習を中心としたグループを顧問教諭、発展的な練習を中心としたグループを外部指導者など、技能等の習得状況に応じたグループ分けを行い、能力差に応じたグループ別練習の実施する。

◎指導の効果

- 生徒の能力に応じた指導を行うことができ、一人ひとりに活動に対する満足感や成就感を味わわせることができた。
- 生徒の技能等の高まりに応じて競技成績が向上し、生徒の活動意欲も高まった。

table tennis



【質問37】

顧問と外部指導者との関係において、どのようなことが問題になると考えられますか？
また、どのようにすれば問題の発生を防止できますか？

【ヒント】

指導の効果を上げるために、外部指導者が生徒や保護者から信頼されることはとても大切なことです。下記のような状況は避けなければいけません。

1 背景

外部指導者がその学校で顧問以上に長く指導しているベテランの指導者の場合、若い顧問は指導に口を挟みにくい状況が生まれます。また、技術指導は、生徒が部活動の中で最も期待を寄せる部分であり、部活動指導の中で大きなウエイトを占めるため、外部指導者が大きな発言力をもってしまいます。

2 想定される問題点

顧問と指導者の関係において、次のようなケースが想定されます。

- ・ 外部指導者に任せ過ぎることにより、生徒が顧問の指導に従わなくなり、顧問と生徒との間の信頼関係が損なわれる。
- ・ 外部指導者があらかじめ分担された自らの役割を越えて、行き過ぎた指導を行う可能性が出てくる。

3 避けるべき具体的な事例

外部指導者の役割を超えて、顧問が知らないうちに次のような内容が決められることは避ける必要があります。

- ・ 練習日・練習時間・不適切な練習等を、顧問に相談なく独自の判断で変える。
- ・ 顧問に相談なく、独自の判断で、練習試合を組んだり、大会に参加する。
- ・ 顧問に相談なく、校外の施設での練習を計画し、生徒を校外に連れ出す。
- ・ 部活動以外の時間に生徒を呼び出して、個人的に指導する。
- ・ 生徒の保護者と直接連絡を取る。
- ・ 活動中に生徒に対して、顧問に報告すべき厳しい指導場面があったにもかかわらず、顧問に報告をしない。

4 問題が生じないための予防策

顧問と外部指導者の間で問題が生じないようにするには、連絡を密にする必要があります。次のことを心掛けましょう。

- ・ 外部指導者が指導のために来校する場合は、事前の打ち合わせや活動場所で情報交換を密にして意思疎通を図る。
- ・ 学校と外部指導者との間での確認（協議）事項について、共通理解を図ることを徹底する。
- ・ 部活動の最終責任者は顧問であり、活動計画、主将などの部内組織、対外試合の計画、登録選手やレギュラーの決定などは顧問が行うことを改めて外部指導者や保護者に確認しておく。

また、外部指導者を活用する上で問題が生じないよう協議した内容については、「外部指導者の活用に関する調査による本県の状況」P.91を参考にしてください。

3 保護者との連携

保護者の理解と協力は不可欠であるが、保護者による活動や生徒への期待が過熱化し、運動部活動自体に支障が生じることを防ぐため、顧問、保護者という立場から、お互いが共通して話し合う場を大切にすることは、相互の信頼関係を深めていくことにもなる。

また、大会や試合において一緒になって子どもの活躍を応援する機会を設けることによって、一体感や学校への所属意識も生まれ、顧問・生徒・保護者間のつながりをより一層強めることができる。

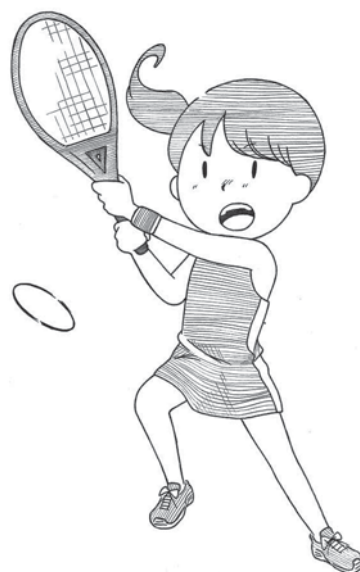
【質問38】

運動部活動を保護者に十分理解してもらうためには、どのようなことに留意する必要がありますか？

【ヒント】

保護者と良好な関係を保つことは、運動部活動を充実させる上でも大切なことです。そのためには、以下のことに留意するといいいでしょう。

- 1 部活動の意義や学校としての方針（考え）、顧問としての指導に関する基本方針等を明確にして伝える。
- 2 練習計画・練習内容・活動時間・休養日を正確に伝える。
- 3 生徒の既往症及び体調の変化や部活動に対する意欲等について、積極的に情報交換を行う。
- 4 生徒にけがや問題が生じた場合は、些細なことであっても顧問が直接保護者に連絡をする。
- 5 保護者から部活動に関する相談や要望があれば、最後まで丁寧に聞くとともに事実確認を行い、適切に誠意をもって対応する。
- 6 保護者からの相談や要望、その他知り得た情報の内容によっては、詳細を関係担当教諭や管理職に報告し、学校全体で対応する。



【質問39】

顧問・部員・保護者が信頼関係を確立するための具体的な方法としてどのようなことがありますか？

【ヒント】

顧問の側から積極的に情報を提供する機会を設けることが大切です。

その際、次のことに留意する必要があります。

1 部活動保護者会（説明会、懇談会）、練習（部活動参観）・試合見学会の開催

1年生が入部する年度初めの時期、3年生の最後の大会が終わり、2年生以下の新チームに部活動の体制が引き継がれる時期に開催する。

○ 部活動保護者会（説明会、懇談会）

- ・保護者に部活動の方針等の理解を図る。
- ・保護者会では、部活動の内容や活動状況を説明する。選手起用に関する顧問の考え方などを理解してもらうだけでなく、一人ひとりの保護者の悩みや要望等を率直に聴く。

○ 練習（部活動参観）・試合見学会

- ・ただ話し合いだけに終わることなく、保護者が生徒たちの部活動を直接見る機会を設定する。

（例）合宿中に保護者会を実施することで、食事・洗濯や厳しい練習を見学し、普段見られない生徒の姿を見てもらう方法もある。

○ 保護者会の組織づくりを行う場合

- ・一人でも多くの保護者が関心をもてる雰囲気づくりと保護者間の連携を図るために、保護者による役割分担（代表等）は細分化する。
- ・役割分担については、顧問と保護者代表のリーダーシップの下、保護者一人の負担が軽減されるよう配慮する。

2 部活動通信の発行

「部活動通信（便り）」を定期的に発行し、練習状況や活動状況を伝える。また、学校のホームページの部活動のコーナーを利用して情報発信する方法もあります。

（例）掲載内容

○日頃の活動状況

- ・顧問、外部指導者、主将等の紹介

○大会・練習試合の予定、結果等

- ・試合結果だけでなく、感想、反省、今後の目標等

○学校側からの連絡、依頼

○保護者や生徒への執筆依頼

本紙掲載の先輩教員等の部活動通信及び資料編第1章「部活動通信（便り）」を参考にし、積極的に情報発信の工夫をしてください。

4 誰でも入・退部できる

生徒が自発的・自主的にスポーツ活動を組織し、展開することが運動部活動の本質である。したがって、運動部への参加については、生徒一人ひとりの考えや希望を大切にし、くれぐれも強制とならないよう配慮する必要がある。また、同好の集団ということで、強い結束力がややもすると部外者に対して入りにくいという閉鎖的な雰囲気が生じやすい。

「開かれた運動部活動」として、まず学校内に開かれ、誰でもいつでも入部でき、状況によっては転部・退部できるゆるやかな関係を保障することが大切である。一方で、最後までやり遂げる強い心を育てることや安易に入退部を繰り返すことがないように継続する力を指導することも必要である。

また、クラスマッチなどを通して、部員以外の生徒に対して部活動で学んだ技術やルールの指導、審判技術の提供など学校行事の運営に協力する機会も設けることも重要である。

このような活動を通して、部員は様々な力を身に付けるとともに、学校全体から認められ、支援される部活動を目指すことが大切である。

生徒の思い出

FIGHTING CHANCE

平成13年度3年 三瓶高等学校 西村知晃



私は、ファイティング・チャンスについて今日お話ししたいと思います。ファイティング・チャンスとは「懸命に努力すれば成功するかもしれないという可能性」の事です。中学校のころには考えもしなかった自分の中の可能性というものについて、この三瓶高校に入学することによって考えるようになりました。平成10年、八代中学校3年生の時の学校説明会で、三瓶高校の話を聴きました。そのとき私は何となく、三瓶高校に魅力を感じて、受験することを決めました。そのときついでに陸上競技部へ入部しようと思いました。この時既に「倉田マジック」にはまっていたのかもしれませんが、でも、その陸上競技が私のだらしなく、情けない性格をここまで変えてくれるとは、この時は思いもしませんでした。800M2'36"、1500M5'10"。このタイムが陸上部員としてどれだけ遅いものかはわかんと思います。これが私の記録のスタートラインでした。陸上部に入部して練習を始めたときは、毎日の練習が辛くて、3年間続けることができるかどうかとても心配でした。とにかく練習から逃げたくて、やめたいという気持ちになったのも度々でした。ほとんどない体力や精神力、不細工なフォーム、怪我の連続、中学時代、努力もせずにサボっていた付けが、ここで私を苦しめました。練習でもいつもビリです。毎日先頭の選手の背中を見ながら練習していました。今まで努力という言葉は、私とは全く無縁で、努力ほど嫌いなものはありませんでした。しかし倉田先生の臭い話を聞いていた内に、このままではいけない、昔の自分は捨てなければならないと思うようになりました。練習も、今までは「できない」「やりたくない」の失望や拒否から、「できたらいいな」「できるかもしれない」の可能性や希望に変わってきました。練習にもやる気が出てきて、いつの間にか「絶対に強くなつてやる」そんな気持ちになっていました。そして、怪我が治ると面白いように記録が上がり、こんな自分でも頑張ればできるという自信になりました。そして昨年の県秋季大会では何と優勝してしまいました。記録が伸びてきて楽しくなると同時に勝負の厳しさも体験しました。特に今年の四国総体でそれを感じました。「絶対にインターハイに行く」そんな気持ちで乗り込んだ高知では、なんと800Mで予選落ちと言う最悪な結果となりました。インターハイ出場のために指導していただいた倉田先生、応援してくれたチームメイト、クラスメイト、担任の先生や両親の期待に応えることができなかった自分自身が不甲斐なくてたまりませんでした。何より、信じていた自分に、自分自身が裏切られたということが悔しくてたまりませんでした。精神的なショックで一時は血尿が出たりもしました。身体的にも、毎日がだるく、ぼーっと過ごす日が続きました。しかしそんな弱い自分を奮い立たせてくれたのも、苦しい練習の日々や、努力していた自分の姿でした。私は17年間生きてきて、これ程一つのことに熱中できたのは初めてです。今では、この熱中できる陸上競技を、苦しいトレーニングをとことん楽しんでやろうとまで思っています。

今も緊張していますが、私がここまで大きく成長できて、皆の前で話すことができるのも、三瓶高校のお陰だと思っています。いろんな人たちに支えられていることに感謝しなければならないと思っています。人それぞれ色々な出会いがありますが、その偶然を大切にしてください。これから先も色々な出会いがあり、偶然があると思います。それを大切にそして生かし、悔いのない人生を送りたいと思っています。ファイティング・チャンス。意味は「懸命に努力すれば成功するかもしれない可能性」のことです。皆は信じますか。私は信じることができるようになりました。私の話を聞いて何も感じない人もいると思いますが何か一つでも心に残るものがあれば嬉しいと思います。

三瓶高校、陸上競技、多くの友達そして両親。本当にありがとうございました。

そして私は走り続けます。限りなき夢に向かって……

外部指導者の活用に関する調査結果

地域スポーツ人材の活用実践支援事業における、外部指導者に関する活用状況や意識調査の結果である。（平成19年度～26年度保健体育課(保健スポーツ課)調査）

平成19年度以降の外部指導者の競技別活用部数の推移

（各年度5月1日現在）

中学校(中等教育学校前期を含む。)

種目・年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
剣道	17	34	31	40	33	42	41	48
柔道	23	37	32	41	45	50	42	43
卓球	20	26	35	38	35	34	33	35
ソフトテニス	7	11	10	10	10	17	21	31
バスケットボール	16	15	22	29	31	31	29	30
バレーボール	15	22	15	21	22	25	22	24
サッカー	9	16	14	22	25	36	28	20
軟式野球	9	14	14	26	19	30	19	15
ソフトボール	5	6	6	6	6	8	12	9
バドミントン	4	8	7	10	10	8	5	8
陸上競技	1	2	7	8	12	10	9	7
ラグビー	0	1	1	1	0	0	0	3
ハンドボール	0	1	1	1	3	6	3	2
体操(新体操)	1	6	4	4	5	3	2	2
水泳	1	7	2	1	2	2	5	0
相撲	1	3	1	0	0	0	0	0
弓道	0	0	0	0	0	0	0	0
ダンス	0	0	0	0	0	0	0	0
空手道	1	0	0	0	0	0	0	0
硬式野球	0	0	0	0	0	0	0	0
ボート	0	0	0	0	0	0	0	0
カヌー	0	0	0	0	0	0	0	0
馬術	0	0	0	0	0	0	0	0
少林寺拳法	0	0	0	0	0	0	0	0
フェンシング	0	0	0	0	0	0	0	0
テニス	0	0	0	0	0	0	0	0
ボクシング	0	0	0	0	0	0	0	0
ゴルフ	0	0	0	0	0	0	0	0
ホッケー	0	0	0	0	0	0	0	0
アーチェリー	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	130	209	202	258	258	302	271	277

高等学校(中等教育学校後期を含む。)

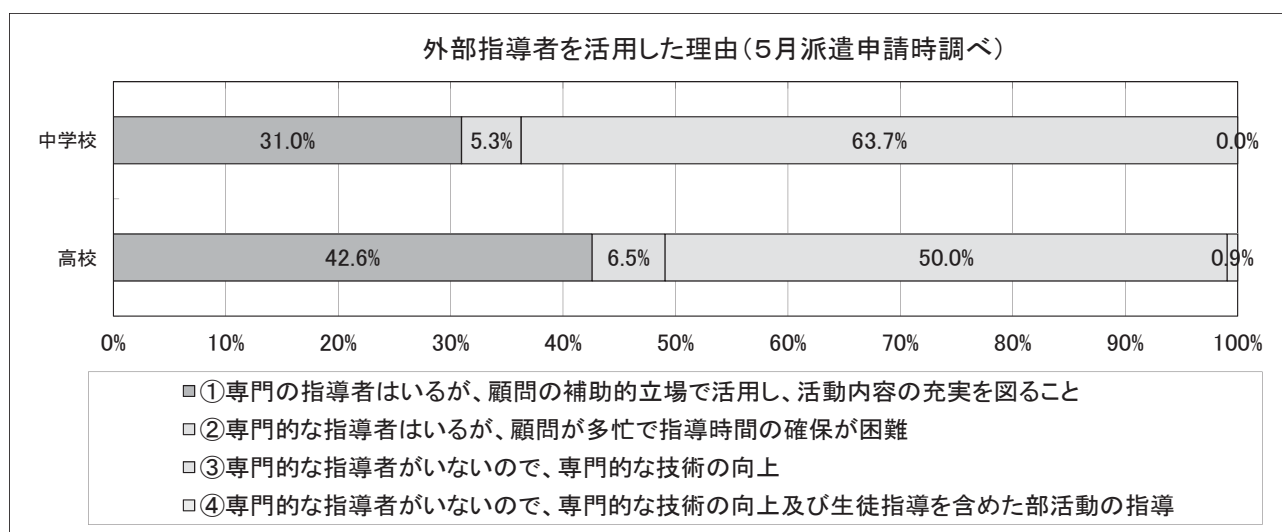
種目・年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
弓道	6	12	12	16	12	17	18	17
柔道	6	14	16	20	16	14	16	14
硬式野球	8	5	11	19	12	14	11	11
卓球	6	6	4	3	6	5	7	9
ラグビー	5	0	0	2	2	4	6	9
ダンス	2	2	2	5	4	6	5	9
バレーボール	10	9	14	8	11	11	10	8
テニス	0	0	2	4	9	7	4	8
水泳	0	6	5	6	8	6	4	8
剣道	2	3	4	10	4	5	2	7
ボート	1	2	1	2	3	4	10	6
バドミントン	1	7	5	6	2	8	8	5
ソフトテニス	3	1	2	5	5	7	7	5
バスケットボール	8	9	10	9	6	4	6	5
サッカー	7	5	11	10	12	4	6	4
ソフトボール	0	2	1	0	2	1	4	4
陸上競技	1	1	1	0	2	3	2	2
アーチェリー	0	0	0	1	1	1	2	2
相撲	0	0	0	1	1	1	1	2
フェンシング	3	2	2	4	0	2	0	2
空手道	0	5	7	8	5	4	3	1
ハンドボール	1	2	4	4	4	6	1	1
少林寺拳法	1	1	2	1	1	1	1	1
ボクシング	0	1	0	0	0	0	0	1
チアリーダー	0	0	0	0	0	0	0	1
ホッケー	0	0	1	1	0	0	0	1
カヌー	1	1	1	1	0	0	1	0
馬術	1	2	2	2	2	2	0	0
軟式野球	1	1	0	2	0	0	0	0
体操(新体操)	0	3	1	1	0	0	0	0
ゴルフ	0	1	0	0	0	0	0	0
合計	74	103	121	151	130	137	135	143

（中学校、高等学校ともに、平成26年度活用部数の多い種目から順に掲載）

平成26年度地域スポーツ人材の活用実践支援事業における外部指導者の派遣に係る実態

外部指導者を活用した理由 ※派遣希望申請書による(26年5月)

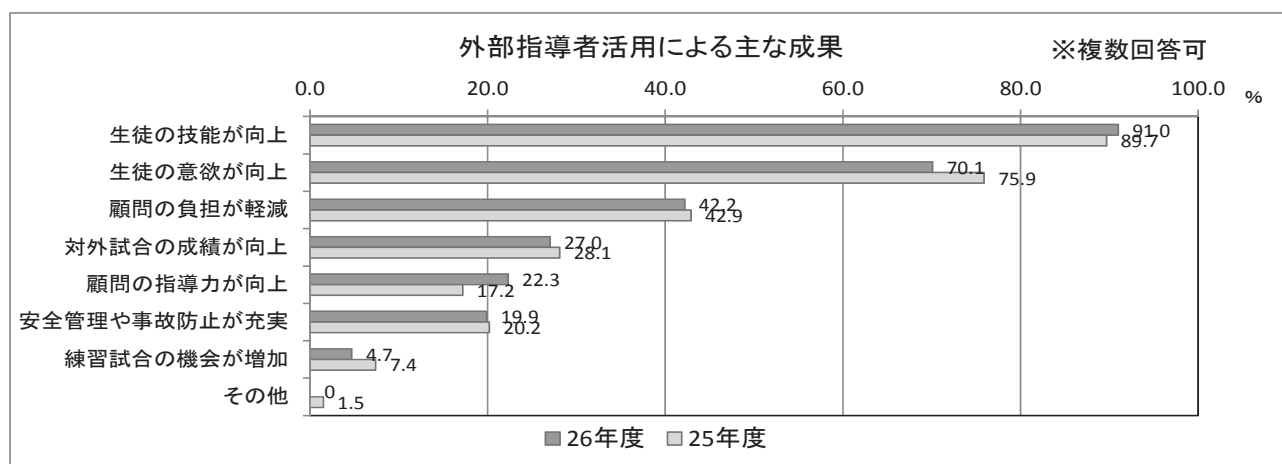
	中学校	高等学校
①専門の指導者はいるが、顧問の補助的立場で活用し、活動内容の充実を図ること	35	46
②専門的な指導者はいるが、顧問が多忙で指導時間の確保が困難	6	7
③専門的な指導者がいないので、専門的な技術の向上	72	54
④専門的な指導者がいないので、専門的な技術の向上及び生徒指導を含めた部活動の指導	0	1
合計	113	108



中学校、高校ともに「専門的な指導者がいないので、専門的な技術の向上」を期待して外部指導者の活用を希望する学校が多く、特に中学校において顕著である。

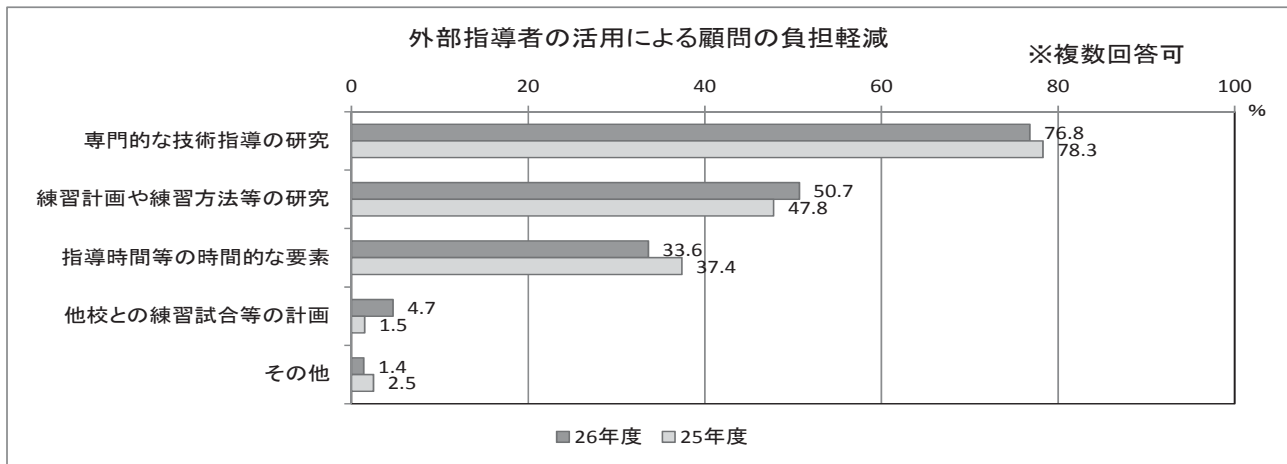
上記事業による外部指導者派遣校への実態調査の結果(平成26年12月調査)

調査対象 中学校 65校 109部、高等学校 40校 102部、計105校 211部

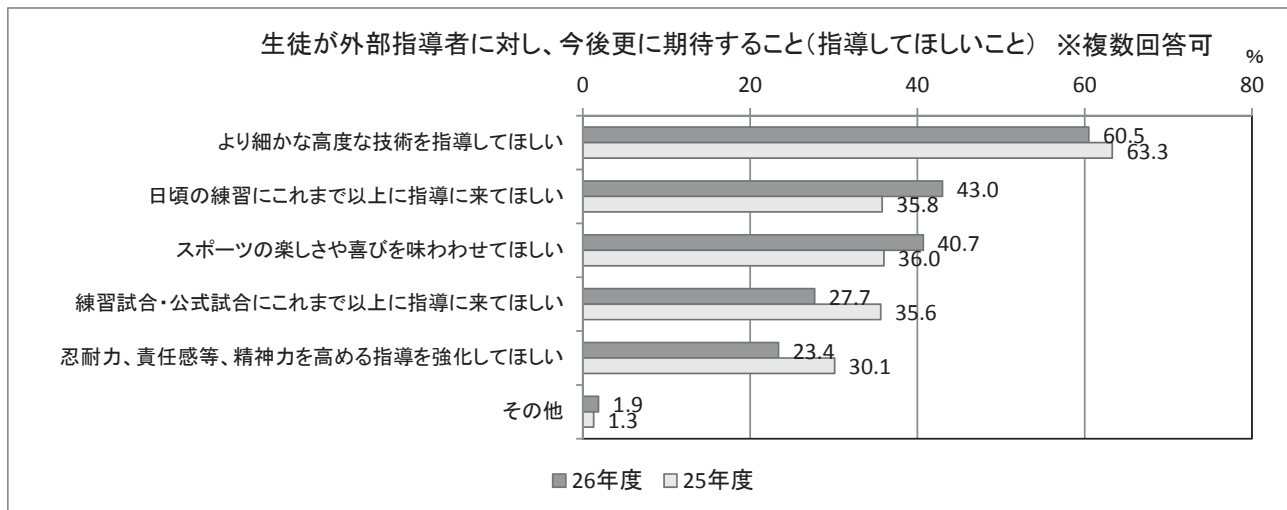


外部指導者を活用することにより、「生徒の技術が向上」、「生徒の意欲が向上」と回答した学校が特に多く、「専門的な指導者がいないので、専門的な技術の向上」を期待して外部指導者を活用した学校が多い中で、その期待に応えられている結果が得られた。

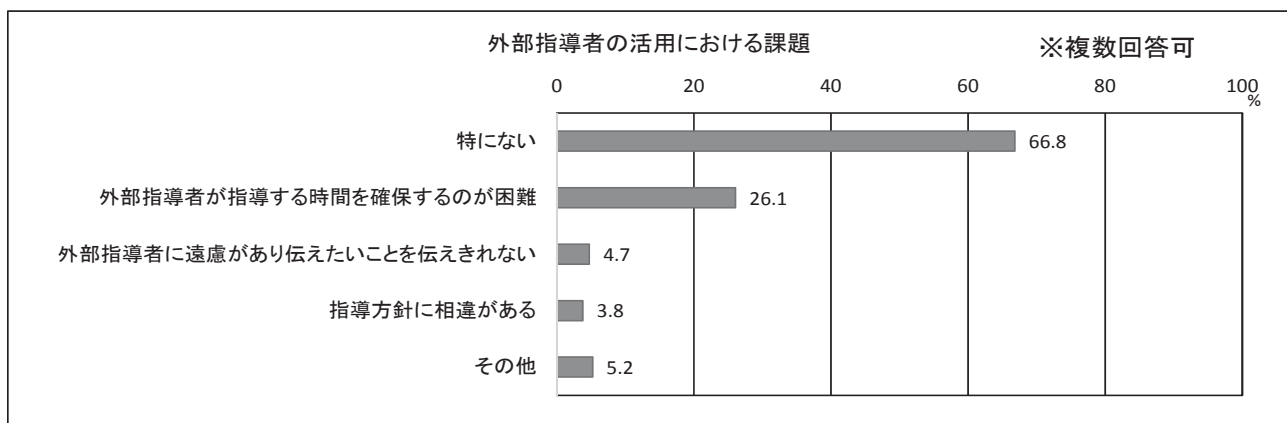
また、4割程度の学校で、顧問の負担軽減にもつながっている。



顧問の負担軽減の内容については、「専門的な技術指導の研究」が特に多く、続いて「練習計画や練習方法等の研究」であった。このことから、専門家でない顧問にとって、負担軽減につながっているケースが多いと推測される。

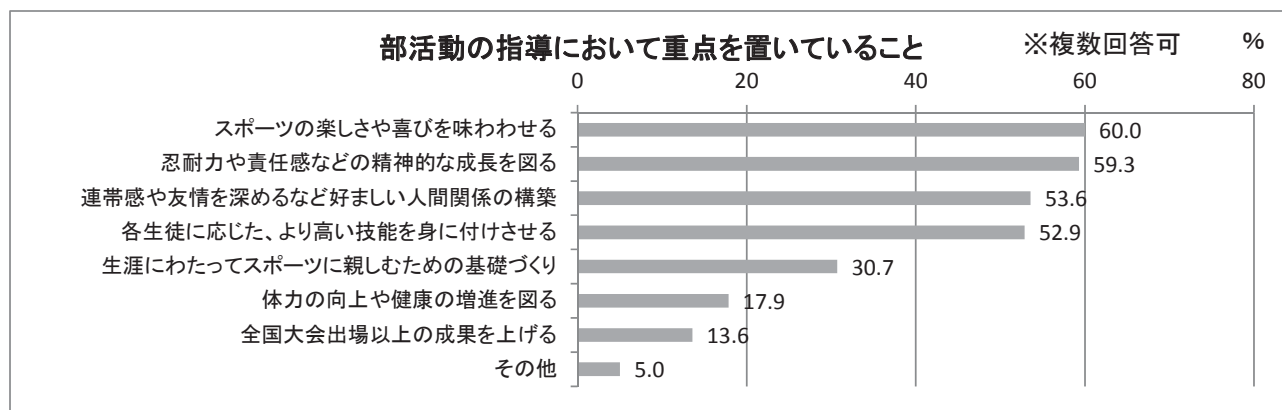


生徒が外部指導者に対し、今後更に期待することについては、「より細かな高度な技術を指導してほしい」が特に多かった。生徒はチーム(団体)目標とともに、個に応じた目標を達成することにより、更に高い目標に向かって継続して努力できることから、この結果を参考に、顧問と外部指導者の連携を一層推進し、生徒の成長に向けて努力する必要がある。



外部指導者の活用による課題は「特になし」と回答した学校が多いものの、少数ではあるが、「外部指導者が指導する時間を確保するのが困難」（外部指導者の仕事等の都合による）や「外部指導者に遠慮があり伝えたいことが伝えきれない」など、今後改善が必要な学校が見られた。

また、平成25年12月に実施した本事業に係る外部指導者本人（回答数140名）への調査において次の結果が得られた。



外部指導者が部活動の指導において重点を置いていることは ①「スポーツの楽しさや喜びを味わわせる」、②「忍耐力や責任感などの精神的な成長を図る」、③「連帯感や友情を深めるなど好ましい人間関係の構築」、④「各生徒に応じた、より高い技能を身に付けさせる」が特に高く、学校教育の一環として、また、生徒のニーズに応じて指導がなされていることが分かった。

なお、外部指導者の学校又は顧問に対する要望や感想等では、

○管理職、顧問の外部指導者への配慮が十分なされており、安心して活動できる。

○勝敗にとらわれず、人づくりを大切にし、学校教育の一環として指導している。

○部活動を通じて生徒とともに成長でき、感謝している。

○顧問のアドバイスにより、自分自身が成長している実感がある。

など、指導体制や指導方法等に満足している記載が多かったものの、少数ではあるが、

●顧問の部活動に取り組む姿勢の改善が必要である。

●顧問との技術指導等における指導方針に相違がある。

●顧問と外部指導者の連携を更に深めることが重要である。

など、今後の改善が望まれる意見も見られた。

外部指導者の協力を得る場合には、事前に学校及び各部の目標や方針、具体的な指導の内容や方法、生徒の状況等について、外部指導者の理解を得るとともに、相互に情報を共有することが重要である。

また、運動部活動は、顧問の教員の積極的な取組に支えられるところが大きいですが、運営、指導が顧問の教員に任せきりとならないよう、校長のリーダーシップの下、学校組織全体で取り組む必要がある。

なお、平成21年度に実施した外部指導者の活用に関する調査のうち、校長又は顧問が外部指導者と協議した内容について、次のページに示しているので参考にする。

平成21年度 外部指導者の活用に関する調査による本県の状況

平成21年度地域スポーツ人材の活用実践支援事業において外部指導者の活用に対する意識調査の記述で回答された結果である。

問 指導する上で問題があり、外部指導者と協議したことがあれば具体的に御記入ください。

回答者	具体的内容
校長	○指導方法が厳しすぎて、生徒や保護者の信頼が得られにくい状態だったので、顧問と連携して保護者や生徒から信頼される部活運営をするようお願いした。また、礼儀やマナーを身に付ける指導をお願いした。 ○性格や熱意など、生徒の部活動に対する考え方等とその考え方に基づいた指導方針等 ○他校の専門的に指導できる教職員との間で、本校の事情を分からないままに勝手にいろいろな話を進めないこと。 ○部活動は生徒の人間的成長を目指して行っているの、教育的配慮が十分にできるひとでなければ外部指導者は務まらない旨のことを本人にはっきりと伝えた。 ○個々の生徒の特性（発達障害など）について共通理解を図るようにした。
顧問	○練習をさぼりがちな生徒がおり、どのように対処すればよいかについて細かく話し合いをした。 ○技術的な考え方の違い。基本的なところは同じであるが、突き詰めていくと違いが出てくる。選手の起用についてもポジションなどで協議することが多い。練習方法についても食い違いがある。トップを目指して指導していく場合、主と副の役割をはっきりしないと、生徒が迷ってしまうと感じています。 ○何のために部活動があり、何を目標として活動するのかを話し合った上で指導をスタートさせた。スポーツ少年団の活動のメリット、デメリットも考慮した上で、将来の人格形成を第一とするが部活動にとって重要であるという点で一致している。 ○技術の向上よりも高校の部活動としてルールやマナーを尊重したり高校生として学習に手を抜かないことが重要であることを理解してもらった。 ○生徒指導の面、技術力向上の面等、お互いが共通理解のもと指導できている。 ○部員の練習態度やチームワークの向上について協議した。 ○練習に参加できなかった部員に対してどう対応するか。 ○個人の運動能力の低下が顕著に現れていることや中学校からの入部者も少なく5対5のチーム練習ができていないことから練習内容の検討をした。 ○学校の行事予定や日程をこまめに連絡し、生徒の練習状況や学校の生活・学習状況などは常に情報交換を行っている。その上で、生徒一人一人の個人の指導を補い合っている。 ○顧問が望む技術指導の目的と具体的な内容について ○部員にけが人が多数出たときに練習内容について協議した。

インターハイ入賞への道

=感謝できることの幸せ=



平成15年度3年 三瓶高等学校 山下郁代

陸上競技を始めて3年が経ち、最後のインターハイを迎えることとなりました。昨年は1500m 4位・3000m 3位と予想以上の成績を収めることができ、それが自信となり充実した1年間を過ごすことができました。記録が向上するほど、多くの合宿や大会に参加でき、多くの競技者との出会いが、より一層の自信となり、自分を強くしていったように思います。

そして迎えたインターハイ。今年も1500m・3000mに出場しました。初日の1500m予選は猛暑の中でしたが、レースの流れに乗ることができ、楽に通過、翌日の決勝に進出しました。今年度は800mの記録も向上し、スピードに自信がついており、3000mより1500mでの優勝を狙って調整をしてきました。しかし練習をしてきたラスト500mでのスパートができず、平凡なレースとなり、また日本人の競技者にもゴール前に抜かれ、県新記録は出せたものの4位にしかありませんでした。

その夜のミーティングで先生から、消極的なレース、留学生への警戒心、留学生に付いて行けば入賞できるという安心感など、この1年間のトレーニングの意味が何だったのかを指摘され、本当に悔しく涙があふれました。そして3000mでは悔い残らぬレースをしようと心に誓いました。

3000mでは、予選から集中でき、思うようなレースで無事通過しました。決勝のW-UPも、動き作りや精神面の高まり、理想のレース展開など、自己のイメージアップができました。コールに行く前に先生にポンと背中をたたかれ、勝つための心作りもできました。スタートラインに立ったときの、大観衆、大声援に包まれ、感動で胸が一杯になりました。1000m、2000mを集団で通過、そこから留学生がスパートし、集団はばらけましたが、1500mのレースの反省もあり、私は留学生3人の先頭集団に付きました。先頭集団は4人で第2グループとはあっという間に差が開きました。急激なペースアップで苦しいレースとなりましたが、1人となるともっと苦しいと思い、必死で付いて行きました。しかしラスト1周、留学生に離され1人となりました。それからの400mは今まで走った距離よりも長く感じました。しかし、愛媛県選手団のスタンドからの「郁代コール」は、くじけそうになった私の心に勇気と力を与えてくれました。ラスト300m、ラスト150mと、必死でスパートしようとしたのですが、ペースは上がりませんでした。ふらふらになり、どうにかゴール。4位。日本人選手1位となることができました。

競技を始めて、初めてのガッツポーズ……。ゴール後チームメイトに声をかけられ初めての涙……。生まれて初めて自己の能力の限界を越えた感動の涙だったように思います。

しかし、留学生とはいえ出場を認められた同じ選手であり負けは負け、今後もっともっと努力して世界で競える選手になりたいと思っています。

この3年間、私のために指導していただいた倉田先生、寺岡コーチ、門石トレーナー、チームメート、そして健康で、楽しく苦しいことに立ち向かえる自分を育ててくれた家族と私を大きく成長させてくれた「陸上競技」には感謝しています。

そして、「感謝できることの幸せ」をいつまでも大切にしたいと思っています。

